

(公財) 大阪産業局 ビジネスサポートデスク (インド)

南インド通信 9月号: 戻る人波と雑消費

ベンガルールよりナマスカーラ!

日中の交通量も戻り、夜間から早朝に掛けた外出禁止令が継続される以外、すっかり街は元通り。今月からは、学年に応じて相次いで実登校も再開され、黄色いスクールバスも行き交うようになった。週末の繁華街はネオンが煌めき賑やかな音楽が流れ、久しぶりの人混みを楽しむ若者グループや家族連れが溢れる。扉を開け放った商店主が客を呼び込み、歩道には露天商が店を広げ、スナックの屋台には老若男女が群がっている。

改めて商店街やモールを歩くと、Covid 前からちらほらと現れていた「雑貨屋」が確実に増えている。欧米にも展開する「日本風」の中国雑貨チェーンを始め、概ね中国・韓国系の店を見掛ける。一歩足を踏み入れて見回せば、棚に並ぶのは、日本の100円ショップの美容コーナーやインテリアコーナーの品揃え。中国・東南アジアであれば「カワイイ」と喜ばれようが、当地では未だ「不要不急」と捉えられる感が多い部類。日本人なら誰もが知っているキャラクターだけど、何か微妙な違和感が残る絵柄や、怪しげな日本語が掛かれた、どれも Made in China の製品群だ。

「あったらいいな」というよりも、明らかに「一時のお愉しみ消費」であろうが、当地ベンガルールの都心部においては、その程度の余裕がある消費者層が厚みを増しているのだろう。どれも概ね数百円の値札が付けられている。

目下、産業局・インドデスクにて開催中の「めっちゃエエで! から始めるインド企業とのオンライン商談会」、そんな消費機会を狙った商品にも可能性があるかもしれない。

以上

◎過去に掲載されたレポートは、以下のサイトをご覧ください。

[https://www.obda.or.jp/events/ibo\\_events\\_all/overseas-from-india](https://www.obda.or.jp/events/ibo_events_all/overseas-from-india)